

一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の数値目標の達成状況について

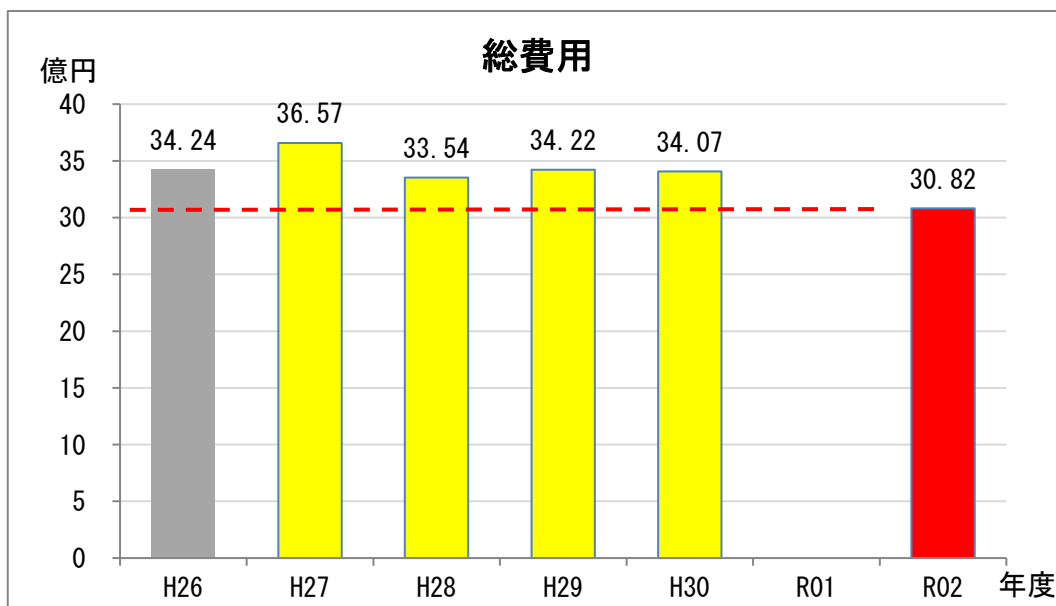
【指標No.1】 総費用

(1) 実績と数値目標

(単位：億円)

		実績	基準値・目標値との比較	
			H26	R02
基準値・目標値		-	34.24	30.82
実績	H28	33.54	△0.70	2.72
	H29	34.22	△0.02	3.40
	H30	34.07	△0.17	3.25

(※ 目標値は、施設整備に関する減価償却費を除く。)



(2) 状況分析

平成 30 年度は最終処分量（埋立量）が減少したことにより埋立費用が減少したほか、人件費の減少により管理経費が下がったことから、基準年度及び昨年度に比べ減少しております。

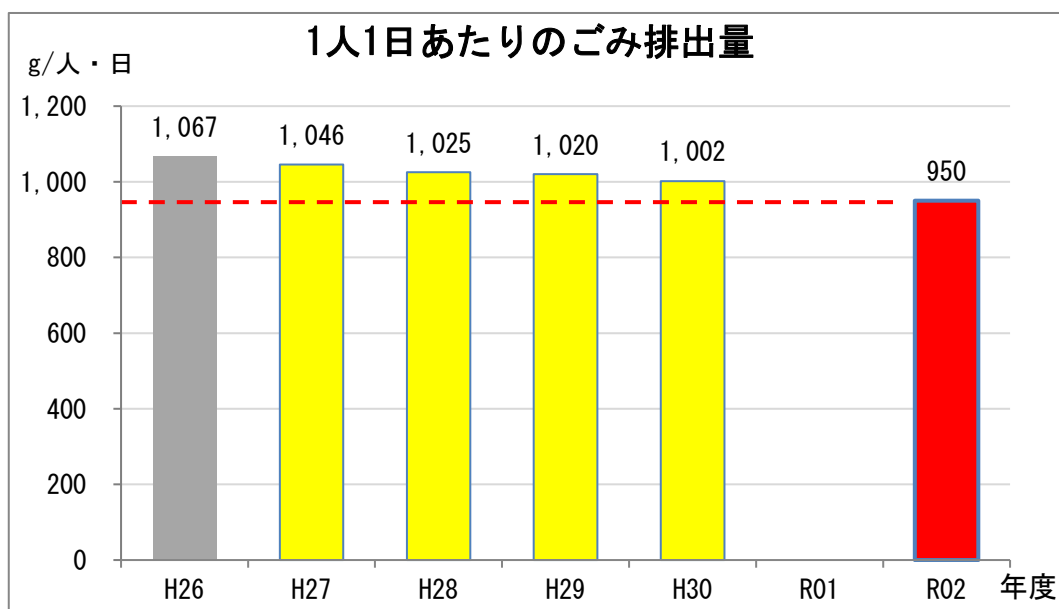
しかしながら、令和 2 年度の目標は未達成のため、引き続き、これまで以上に、ごみの発生・排出抑制を図るとともに、コストを意識した政策を進める必要があります。

【指標No.2】 1人1日あたりのごみ排出量

(1) 実績と数値目標

(単位：g/人・日)

		実績	基準値・目標値との比較	
			H26	R02
基準値・目標値		-	1,067	950
実績	H28	1,025	△42	75
	H29	1,020	△47	70
	H30	1,002	△65	52



(2) 状況分析

平成30年度の実績は、目標値を52g/人・日超過しております。

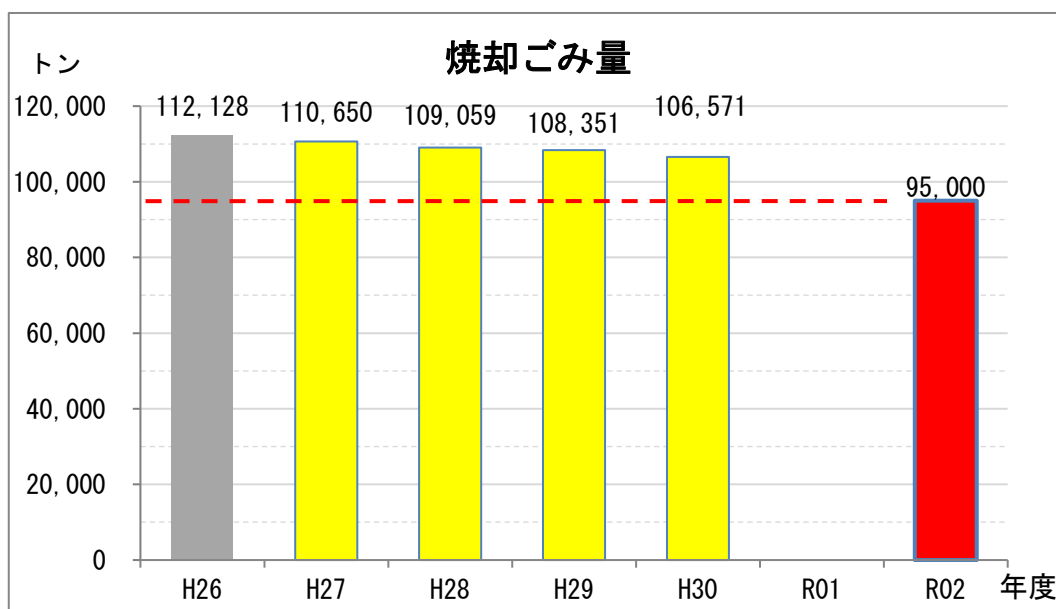
平成29年度と比較すると、18g/人・日減少しておりますが、令和2年度の目標を達成するためには、これまで以上に、ごみの発生・排出抑制を図る必要があります。

【指標No.3】焼却ごみ量

(1) 実績と数値目標

(単位：トン)

		実績	基準値・目標値との比較	
			H26	R02
基準値・目標値		-	112,128	95,000
実績	H28	109,059	△3,069	14,059
	H29	108,351	△3,777	13,351
	H30	106,571	△5,557	11,571



(2) 状況分析

平成30年度の実績は、目標値を11,571トン超過しております。

東日本大震災後に急増した収集ごみは、その後減少傾向で推移しておりますが、令和2年度の目標をするためには、更なる減量が必要であることから、適正分別による混入ごみの減少や、生ごみの水切りなどによる減量努力によって、焼却ごみの発生・排出抑制を図ります。

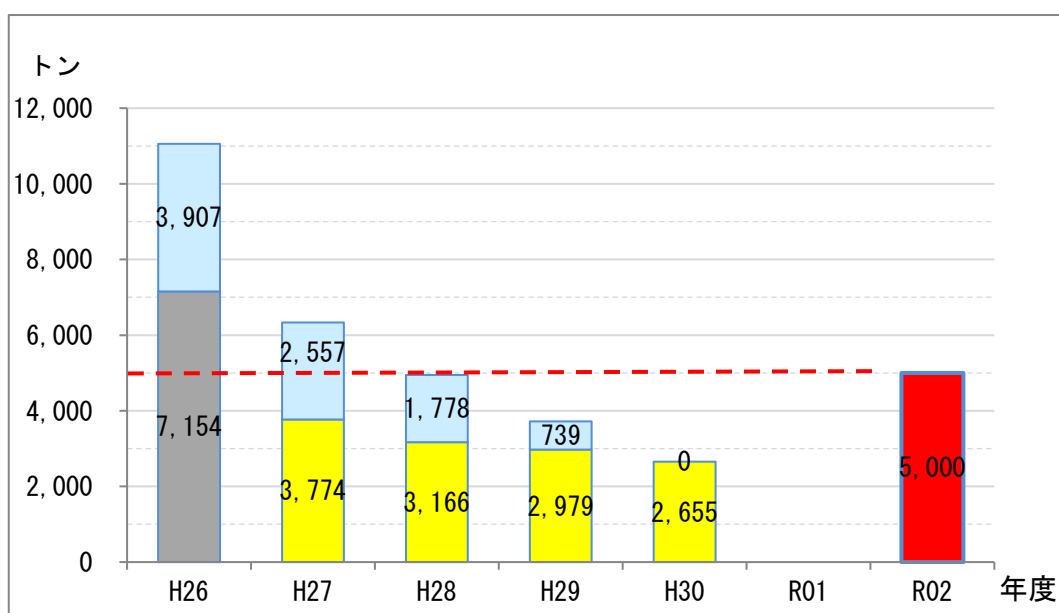
【指標No.4】埋立処分量

(1) 実績と数値目標

(単位：トン)

		実績	基準値・目標値との比較	
			H26	R02
基準値・目標値		-	7,154	5,000
実績	H28	3,166	△3,988	△1,834
	H29	2,979	△4,175	△2,021
	H30	2,655	△4,499	△2,345

※ 一時保管した飛灰 H27：2,557 トン、H28：1,778 トン、H29：739 トン、H30：0 トン
(下記グラフの水色部分)



(2) 状況分析

平成 30 年度の実績は、平成 29 年度に引き続き目標値を達成しました。

平成 30 年度中に清掃センターから発生した焼却灰（主灰・飛灰）は、全量再資源化を実施しております。

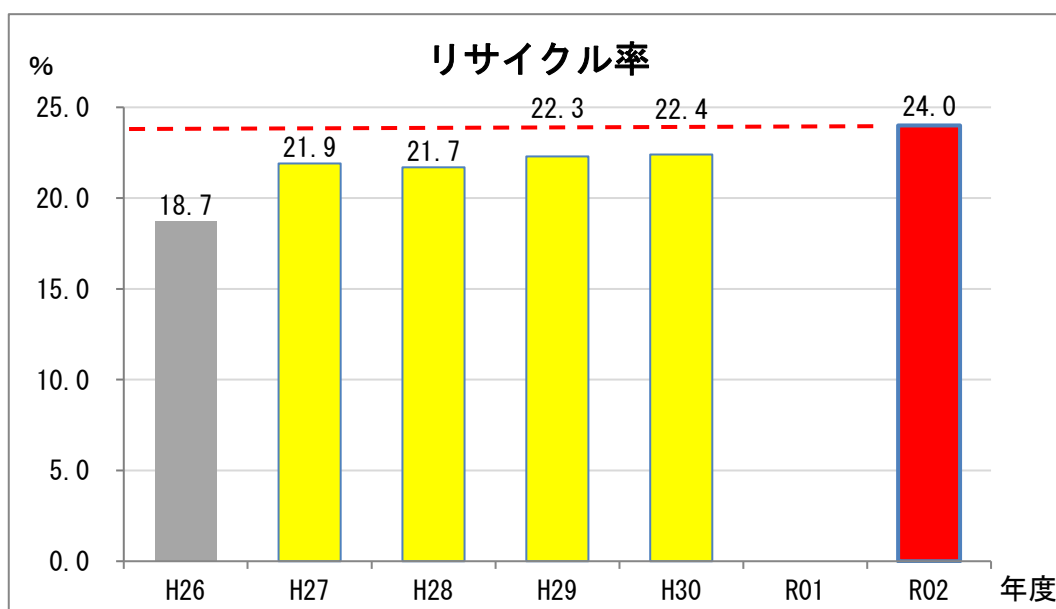
令和元年度からは、市民総ぐるみ運動の側溝清掃が再開したことより、側溝堆積物を搬入しており、平成 30 年度の実績より増加する予定であり、今後についても、埋立処理しているごみの再資源化方法等を調査・検討し、最終処分場の延命化を図ります。

【指標No.5】リサイクル率

(1) 実績と数値目標

(単位：%)

		実績	基準値・目標値との比較	
			H26	H32
基準値・目標値		-	18.7	24.0
実績	H28	21.7	3.0	△2.3
	H29	22.3	3.6	△1.7
	H30	22.4	3.7	△1.6



(2) 状況分析

平成 30 年度の実績は、目標値に 1.6 ポイント及びませんでした。

清掃センター焼却灰等の再資源化量の拡大を図ったことにより、H29 年度と比較し、0.1 ポイント上昇しましたが、古紙類の排出量の減少率が大きかったことにより、目標を達成することができませんでした。

平成 32 年度の目標をするためには、今後も主灰及び飛灰の安定した再資源化を図りながら、焼却ごみを中心としたごみの発生・排出抑制と分別の徹底を図る必要があります。